

幹事会・運営委員会報告

庶務幹事 前田裕宣、坂井信彦

◇第Ⅱ期幹事会（第6回）

日 時 平成8年5月11日（土） 午後1時～午後2時
場 所 航空会館（東京・新橋） 901会議室
出席者 菊田、坂井、塩谷、下村、菅、難波、虎谷、村田、坂田、前田、
佐久間（事務局）
オブザーバー：大野（共同チーム）、植木（共同チーム）、斎藤（財団）
鈴木（財団）、牧田（財団）

第Ⅳ期運営委員会（第1回）開催に先立ち、第Ⅱ期幹事会（第6回）が開かれた。SPring-8利用者懇談会の平成7年度活動総括と平成8年度活動方針について会長から、また現状について各幹事から報告があった。内容のうち引き続き行われた第1回運営委員会と重複する部分は「第Ⅳ期運営委員会（第1回）」報告に記載し、ここには主要項目のみを記載する。

〔報告事項〕

〈会長報告〉：SPring-8利用者懇談会の平成7年度活動総括と平成8年度活動方針。

〈各幹事報告〉

庶務幹事：坂井

- ・会員数の動き。（現会員数 978名）
- ・SPring-8の見学手続き。
- ・SPring-8利用者懇談会の外国人会員について。

会計幹事：虎谷

- ・平成7年度決算。
- ・平成7年度SPring-8利用者懇談会サブグループ会合開催状況。

編集幹事：難波

- ・今年度から広報誌「光彩」を年4回の季刊誌とすることについて。
- ・次回「光彩」の発行予定。

行事幹事：坂田

- ・第10回放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムのプログラムについて。

運営幹事：塩谷

- ・課題募集について。

利用幹事：下村

- ・サブグループ登録について。

利用幹事：村田

- ・平成7年度の報告書について。

[その他]

「SPRING-8利用者懇談会の外国人会員について」に関して、庶務幹事案の説明の後、審議した。その結果、庶務幹事を中心に事務局で問題点を整理して、次回再度提案することにした。

◇第Ⅳ期運営委員会（第1回）

日 時 平成8年5月11日（土） 午後2時～午後5時

場 所 航空会館（東京・新橋） 901会議室

出席者 菊田、雨宮、宇山、木原、坂井、坂田、佐藤、塩谷、下村、菅、月原、辻、
徳永、虎谷、難波、前田、三木、村田、安岡、渡辺、佐久間（事務局）
オブザーバー：上坪（共同チーム）、大野（共同チーム）、植木（共同チーム）
斎藤（財団）、鈴木（財団）、牧田（財団）

出席者自己紹介の後、佐藤氏を議長に互選し、本年度第1回目の運営委員会を開催した。

1. 〈会長報告〉

会長より次の報告がなされた。

- ・平成8年度の顧問・運営委員・幹事の紹介。

海外長期出張の圓山編集幹事の代理を姫路工業大学の伊藤（正）先生にお願いすることになった。

会員数は、現在978名で大学所属の方の加入が増えている。

- ・平成8年度の活動方針は平成7年度に引き続き、今年度も原研・理研共同チームと連携し、（財）高輝度光科学研究センターからの委託業務を行う。それに関連して、サブグループには調査報告書の作成をお願いする。SPRING-8の利用に関して随時協議して我々の要望を伝える。
- ・（財）高輝度光科学研究センターの研究所整備にあたっては、要望および協力をしていきたい。
- ・共同利用体制の円滑化については、本年3月の航空・電子等技術審議会において「ビーム使用料に関しては利用者が成果を専有せず公開するような利用研究については利用者からビーム使用料を徴収しないことが適当である。」との見解がされた。
- ・共用ビームラインの実験ステーション建設への協力ということが今年度の大きな課題である。建設チームの体制も整い、建設の責任者とそのメンバーも確定した。

- ・いよいよ当初実施予定の実験計画の精緻化を行う時期となり、各サブグループで何を実験計画の目玉にするかを検討していただきたい。
- ・10本目以降のビームライン、30mビームラインについてもユーザーからの要望を出して行きたい。
- ・サブグループは現在34ある。ビームラインを作っていく上で整合性のある形になっていくようになるのが望ましい。
- ・第10回放射光学会年会・合同シンポジウム（平成9年1月8日～11日、東京）を共催するにあたり、SPring-8利用者懇談会から組織委員会に、坂田利用幹事が組織委員として参加する。
- ・広報誌「光彩」については、情報を早く伝えるというような意味から、年4回の発行とする。
- ・海外会員の受け入れのための体制を整えたい。

2. 〈各幹事報告〉

庶務幹事：坂井

- ・SPring-8の視察について

各SGでSPring-8視察を希望する場合の要領取り決めの報告がされた。（内容については、本誌34頁参照）なお建設業務に関わる現場への立ち入りは、建設責任者とBL担当者として打ち合わせSPring-8利用者懇談会の事務局を経由しない事とした。

会計幹事：虎谷

- ・平成7年度予算使用状況及び決算の報告があった。
- ・平成7年度サブグループの会合開催状況についての報告があった。
- ・平成8年度の予算については検討中である。

編集幹事：難波

- ・今年度から「光彩」は年4回発行とする予定である。
- ・次号「光彩」10号は6月に発行予定である。

3. 〈審議事項〉

- ・新規加入の申し込み35名について承認事項として申請書を回覧し承認を得た。

4. 共同チーム及び財団の活動状況について

上坪 宏道（共同チーム）

建設状況は順調に進んでいる。リニアックではエイジングが実施されていて、現在内部に入ることは殆ど不可能である。8月からコミッショニングを始める予定。シンクロトロンはマグネット、真空チェンバー、RFの設置が終わった。シンクロトロンの真空状態は良好である。これらの通電テストが始まるので、10月からのコミッショニングは可能と思っている。蓄積リングも順調である。マグネットのほとんど全部の据えつけが終わっている。真空チェンバーも4分の3以上の据えつけが終わっている。真空は 10^{-8} から 10^{-9} パスカルまで到達している。RFについてはステーションの組立が始まっており、今年後半B,Cステー

ションの備え付けが終わる見込みである。今のところ2月中旬のコミッショニングを考えているが、挿入光源もなるべく12月までに4基入れたいと思っている。コミッショニングのあと、挿入光源と偏向磁石からの光をできるだけ早く取り出せるような準備をしておきたい。

安全管理に関しては、放射線発生装置としての申請がライナックについて終わっている。ライナックは7月に施設事前検査、8月に運転開始となる。シンクロトロンは10月の運転の前に運転に関する申請と施設の使用前検査がある。来年1月に蓄積リング・ビームラインについての申請を行う。ビームラインは、アンジュレーター、偏向電磁石、ウイグラーの3種類に分けて一括して申請する。来年の5月までにビームラインまで光を出し、ビームラインの運転許可が得られればと思っている。

医学利用実験施設、マシン実験棟、組立調整実験棟、中央管理棟の発注はすべて終わった。交流施設は来年の秋にはすべて完成するようにしたい。食堂は、今年度秋から冬にかけて使用できる予定である。理研の構造生物学研究棟も安全祈願祭が終わり、建築も順調に進んでいる。

財団の近況としては、5月から斎藤茂和氏が企画調査部部長になった。また、4月から利用業務部（部長は鈴木伸武氏）が新しくでき、ユーザー対応、共同利用のあらゆる事をこの部が行うことになった。財団の本部の所在はユーティリティ管理棟に移動し、利用業務部は蓄積リング棟のA棟に移動した。

3月～4月にかけて、共同チームの利用系の原研・理研の方々が西播磨に移った。

国際集会では、APSとESRFとSPring-8の三極の集まりが4月15～16日に、また、30m長直線部の利用に関するワークショップが姫路で4月17～19日にあった。さらに4月22～25日には第5回国際アドバイザー会議を開いた。SPring-8の一般公開が4月21日にあった。

5. BL建設状況について

植木 龍夫（共同チーム）

ビームライン建設については、順調に進んでいる。工程表に命マークをつけていた核共鳴散乱ビームライン、結晶構造ビームライン、高温・構造物性ビームライン、XAFSビームライン、生体高分子ビームライン、R&Dビームライン、理研ビームラインの7つのビームラインは、来年5月のコミッショニングにあわせるべく建設を進めている。

今まで、共同利用ビームラインと呼んでいたものをこの4月1日から「共用ビームライン」呼ぶことにした。

利用系のメンバーが全員播磨に結集している。共同チームのメンバーで共用ビームラインを建設している者、原研ビームラインを建設している者、理研ビームラインを建設している者およそ3つのグループ、50名を越える人が結集している。

利用系のTEL 07915-8-0831

利用系のFAX 07915-8-0830

加速器のTEL 07915-8-0851

加速器のFAX 07915-8-0850

かなりの人がPHSをもっているので回してもらえと思う。

6. SG会合とBL建設の関連の旅費について

大野 英雄（共同チーム）

まだ、両研究所とも契約が成立していない。一般のSG会合に関する旅費は従来通り準備したい。ビームライン建設については規格化標準化は今年度は10本になっているので、昨年同様とは考えていない。一般のSGの会合と建設に関する出張旅費の区別は利用業務部で考えていただけたらと思う。建設に関する出張形態については、目下検討中であるが、窓口は利用業務部で対応したいと考えている。建設に関しては共同チームの担当者を通して行ってもらいたい。

7月～8月にかけて滞在施設が使用できる予定であり、食堂は秋から冬にかけて一部運営される予定。

7. 課題申請について

斎藤 茂和（財団）

平成9年2月から9月末まではストレージリングのコミッショニングの期間である。

平成9年の10月頭からビームラインのコミッショニングが始まる。それまでに、ライナック、シンクロトロンのコミッショニングがある。10月のビームラインのコミッショニングを始めると同時に、それと併存するかたちでの利用研究を一般公募により始める。とりあえず平成9年10月からの6ヶ月間を試行期間と位置づける。平成8年10月1日からこの試行期間中の利用課題の公募を開始する。10月の公募の前に利用者のための施設のガイドブックとビームラインのハンドブックを用意する。

8. SPring-8共用ビームライン課題申請について（運営幹事：菅、塩谷）

SPring-8共用ビームラインの利用課題の募集について利用懇談会幹事、SG世話人からの意見を取りまとめ運営委員に事前に配布し、当日意見交換を行った。

はじめにJASRI企画調査部長の斎藤氏より説明があった。

平成9年9月末を目処にストリージリングのコミッショニングを終了させ、引きつづく6ヶ月間をビームラインのコミッショニング期間とするとともに、ビームライン利用の試行期間と位置づけることを考えている。そのための利用課題を平成8年10月より募集する予定。この期間の利用は原則として国内利用者に限りたい。この期間はビームラインのコミッショニングと併存する形で実施可能な建設グループによる利用課題と一般の利用課題を募集したい。ともに利用課題選定委員会を通ったものについて利用を認めることになる。これまで色々な機会に建設グループの優先利用が求められてきたが、公式には建設グループの優先利用というものはなく、産官学の利用すべてに対して平等に扱う。しかしながらこの期間の利用課題の実施についてはコミッショニングとの関連から建設グループの意見が十分尊重されると考えてよい。また供用開始後もビームラインの調整や高度化が継続的に必要であり、ビームライン建設の成果に関する評価をへた上で、JASRIから再び建設グループにビームラインの調整・高度化の仕事を依頼することもあると考えられる。調整・高度化の作業のためのビーム時間を確保出来るように努める。したがって、現在の建設グ

ループは建設に協力したビームラインを利用する道は多様にあると考えていただいてよい。
ついで出張形態についての説明があった。

現地での共用ビームライン建設作業のための建設グループの旅費については共同チームのビームライン担当者を通してJASRIに請求する。

教官に限らず建設に参加する院生に対しても旅費支援を考えている。ただし保険については各大学で手当して欲しい。文部教官の出張については現在文部省に具体的な名前を出して交渉中である。

9. 第10回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウムについて（行事幹事：坂田）

- ・合同シンポジウムは2年経過後に再検討をする事を前提として始められた経緯がある。今年春に検討がされた、継続が決まった。
- ・第1回組織委員会が4月13日に開かれた。来年の合同シンポジウムは、平成9年1月8日～11日に東京大学山上会館（東京文京区本郷7-3-1）を会場とすることに決まった。
- ・第11回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウムについては、SPRING-8のサイトでお引き受けするか否かを、SPRING-8関係者で現在検討中である。

10. ユーティリティーについて（利用幹事：下村）

- ・3月の拡大世話人会の際に共同チーム・JASRIから行われた安全・ユーティリティーについての提案に対して当日多くの議論・質問がなされたが、時間の都合で十分な議論が行えなかった。改めて、安全の考え方及び液体ヘリウム等の供給方法等についてSG代表に問い合わせをしたところ、5件の質問があった。これらの質問については共同チームおよびJASRIに検討を依頼した。安全・ユーティリティーの問題は建設のフェーズにも依存して、多岐の分野・水準にわたっておきてくるので、JASRI、技術支援方策検討委員会と意見交換をしながら、利用者の声が的確に反映できる方式を検討していきたい。
- ・11日目以降のビームライン建設については、あらたにビームライン検討委員会で議論されることになるが、そこでの基本的な考え方や提案書提出時期などの情報を時宜よく流すようにしたい。

11. 報告書とAnnual Reportの整合性について（利用幹事：村田）

- ・報告書が3月にできあがった。
- ・Annual Reportについて共同チームと打ち合わせを行った。

[その他]

使用済み試料・廃液等の処理方法を今後共同チームとともに検討する。